



平成30年度 佐久地区賛助会総会 開催

平成30年5月24日(木)

於：佐久合同庁舎 5階講堂

去る5月24日、長野県佐久合同庁舎5階講堂において、佐久地区賛助会総会が大勢の会員の参加のもと開催されました。川村英紀会長の主催者挨拶の後、長野県佐久保健福祉事務所長の白井祐二様から、ご来賓を代表してご祝辞をいただきました。尚、長野県議会議員の皆様からは、スケジュールがあわず、今回ご出席はありませんでしたが、近隣市町村からは次の方々のご出席をいただきました。



小諸市民生部高齢福祉課
小林俊明 課長
佐久市福祉部高齢者福祉課
山崎ひろ子 課長
小海町町民課
井出三彦 課長
佐久穂町健康福祉課
井出政利 課長
南相木村住民課
児玉常夫 課長
小諸市社会福祉協議会
細谷信治 会長
佐久市社会福祉協議会
佐藤悦生 会長
佐久市老人クラブ連合会
花岡文夫 会長

川村会長 挨拶 (概要)

皆さん、そろそろ終活の準備は始めているでしょうか。今や、“人生100年時代、”と叫ばれています。最後の再就職の終活を、とお考えの方もおられるかと思いますが、先日、NHKスペシャル「縮小日本」というTV番組を観ましたところ、日本では、後期高齢者を積極的に採用する企業はない、とのことでした。また福祉関係の面では、介護士の数不足対策として外国籍の人を採用するとしても、日本語ができないといけない、介護の研修はそのあと、といったように、日本の現状の制度では国際的な競争にならず、介護士の人数はなかなか集まらない。国会でも働き方改革など論議されていますが、オタオタしていると、人手不足、働き手不足があたり前になってしまう、等々。「縮小日本」の番組は実に考えさせられるものでした。先日の『サラリーマン川柳』のなかで、“人生が百年となり大あわて、”というのがありました。

大丈夫か 日本！！

人生の最後が安らかに送れるように、よろしく、これからの皆さんにお願い申し上げます。

4年間の会長任期中、皆様からいただいたご協力に、心より感謝申し上げます。

長野県 佐久保健福祉事務所長 白井 祐二様 ご祝辞



(概 要)

“人生100年時代、といわれる現在、この高齢社会を支える地域の大きな力としてシニア世代への期待は、増々大きくなっています。

長野県長寿社会開発センター賛助会は、「誰もがその人らしく生き抜く長寿社会の実現」というセンターの目標と事業に賛同された皆様が、サポーターとして積極的に取り組まれている組織です。長野県の賛助会は、全国的にも先駆的な制度として注目されています。

長野県は健康長寿県としてトップレベルにありますが、これも、皆様の賛助会活動などの社会貢献活動が、大

きく貢献していると考えております。長野県としても、5年後の長野県の姿として、「しあわせ信州創造プラン2.0」を策定したところですが、その中で、シニア世代の皆さんがこれまで培ってこられた知識・経験を活かしながら、元気に活躍できる「人生二毛作社会づくり」の実現にむけて、取組みを進める所存です。

皆様におかれましては、仲間づくり・社会参加活動を通じて、豊かで活力ある健康長寿社会の実現にむけ、一層のお力添えをお願い申し上げます。

議 事

この後、司会よりご来賓のご紹介がされた後、ご来賓は退席され、議事に移りました。

議長に 菊池 勉 さん、副議長に 臼田 佳子 さんが選出され、下記の議案の審議が行われ、満場一致で可決承認されました。



第1号議案 平成29年度 佐久地区賛助会事業報告

第2号議案 平成29年度 佐久地区賛助会会計決算

第3号議案 平成30年度 佐久地区賛助会事業計画

第4号議案 平成30年度 佐久地区賛助会予算計画

第5号議案 佐久地区賛助会会則 一部改正

第6号議案 平成30年度 佐久地区賛助会役員・理事

- **第1号議案** のなかで、賛助会員の推移として、平成30年3月31日現在の報告がありました。
 - ・個人会員 432名 (対前年 61名減)
 - ・法人会員 3団体
 - ・活動グループ数 25グループ (対前年 4グループ減)
- **第3号議案** の30年度事業計画で、7月以降の計画については以下の通りです。
 - ・佐久地区賛助会 理事研修会 7月19日 (木)

- ・ 2018信州ねんりんピック
 - <文化・芸術交流大会> 9月28日(金) ~ 30日(日) 佐久市コスモホール
 - <スポーツ交流大会> 10月20日(土) 東御中央公園
- ・ 佐久地区賛助会員 活動発表会 11月22日(木)
- ・ 支部との連携事業
 - <公開講演会> 7月8日(日) 佐久合同庁舎5階講堂
「地域づくり講演会」～地元にと仕事を取り戻す!～
講師: 持続可能な地域社会総合研究所所長 藤山 浩 氏
 - <子どもわくわくフェスタ> (佐久市子ども未来館と連携)
8月6日(月)、7日(火) 佐久市子ども未来館
シニアが先生になって子どもたちに安全で安心できる楽しい空間を演出する。

○ **第6号議案** で承認された新年度の役員は以下の通りです。

会 長	加藤 豊久		
副 会 長	北村 東巳	伴野 秀子	中田 喜志江
会 計	箕輪 経一	木村 由美子	
監 事	上原 くに子	中島 袈裟幸	
顧 問	川村 英紀		
相 談 役	清原 基生	堀籠 計可	

○ また、活動推進サポーターとして、下記の3名が長寿社会開発センターから任命されています。
菊池 勉 (和踊会)、 臼田 佳子 (ハンドメイド友の会)、 萩原 幸男 (親墨会)

加 藤 豊 久 新 会 長 より

〃 賛助会会長に選出されて 〃

こんにちは。去る5月24日の賛助会総会において、会長に選出されました加藤豊久です。

会長就任にあたり、私の考えを述べさせていただきたいと思います。川村前会長の強いリーダーシップの下、賛助会は活性化に向けて大きな飛躍を遂げました。会員相互の親睦と交流を目的として、「兎と亀の運動会」を始めました。また、諏訪地区の賛助会との交流会を持ち、賛助会を活発にするために何をしたら良いか、意見を交換しました。このような活動はこれからも継続して行われるべきものと考えます。



賛助会はシニア大学と共に長野県長寿社会開発センターの傘下であり、賛助会会員の多くはシニア大学の卒業生です。賛助会として、シニア大学生との交流をもっと活発にすべきと考え、合同ハイキングを実施しました。また、昨年に続き、「兎と亀の運動会」を企画、実行しました。

このように、川村前会長の敷かれた路線を継続し実行してゆきますが、佐久地区賛助会にとり、今年最大の課題は、9月に予定されている「ねんりんピック」を成功させることです。会員の皆様の積極的な参加をお願い致します。

次いで、息の長い取組みとして、「活性化委員会」を立ち上げ、活性化策をまとめてゆきたいと思います。会員の皆様のご支援・ご協力をお願い致します。

佐久地区賛助会 研修会

賛助会総会終了後、一般社団法人 日本記念日協会 代表理事 加瀬 清志 様を講師にお招きし、「記念日で人生を豊かに生きる」と題して講演をいただきました。



講師の加瀬様は、放送作家、コラムニストであり、1991年に設立された日本記念日協会の代表理事でもあります。平成2年に東京から佐久市に移住され、現在、岩村田本町商店街の近くに住まわれています。

冒頭、講演が終わってお客様に手ぶらでおかえしするのは失礼だ、とのことで、講演終了後の抽選用の番号札が皆に配られたり、8月8日が記念日との「パインあめ」が全員に配られたり、大阪で電車に乗ると、おばちゃんがよく「あめ」をくれるそうで

ですが、これがコミュニケーションのいいきっかけになりますよ、等の話から講演が始まりました。講演概要は次のとおりです。

長野県長寿社会開発センターには、以前関わったことがあります。情報誌『信州りらく』の命名に携わった委員の一人です。この名は、リラックスして、気持ちを大きく持って、長生きしてほしい、との願いからつけられた名前です。その時、この組織の目的は？とお聞きしたところ、トップからは、「出会うことが目的、学ぶことと出会う、仲間と出会う、地域と出会う、これが目的」とのお話でした。

自分がやっている放送作家という仕事は、色んな人と出会い、新しい情報を得る、ということがどうしても必要ですが、仕事をしていく中で、阿久 悠氏と知り合い、「いやなことでも聞く耳を持つということが、放送作家には必要なことなんだ。」と諭されました。

今日、『戦前・戦中・戦後100年カレンダー』を持ってきました。1921年から2020年までのものです。これをみて、何曜日生まれかがわかると、お仲間になるきっかけができます。

記念日にはいろいろな記念日があります。5月20日は県歌『信濃の国』制定の日、毎月8日は信州地酒に乾杯の日（おちょこを二つくっつけてみて下さい）、などです。

最近、「すてき記念日」に取り組んでいます。母の日はイチゴのショートケーキです。（苺の字は、草かんむりの下に母という字がはいります）。父の日はモンブランの日です。「母の愛は海より深く、父の愛は山より高い」という諺がありますが、高い白い山モンブランにちなみました。

このように、日付けのある文化というのは、なかなかのものだと思います。私は他人の誕生日がとても気になります。誕生日が同じだというだけでコミュニケーションがはかれます。結婚記念日も大切な記念日です。10年以上経過しても、女性は68%が記憶しているのに、男性は35%しか記憶していないそうです。もっと大切にしないといけませんね。

ここまでいろいろと、記念日の話をしてきました。

記念日を、一つ一つクリアしていくことで、人生を楽しく生きられる、と思っています。

佐久地区賛助会とシニア大学1・2学年 合同ハイキング

平成30年6月15日（金）、賛助会員とシニア大学生との交流を深めることを目的とした合同ハイキングを行いました。「虚空蔵山自然のみち 石仏コース」を歩くことを予定していましたが、午前9時40分にヘルシーテラス佐久南に集合したところで、あいにくの降雨となってしまう、計画していた虚空蔵山は断念し、希望者で、コースの途中にある多福寺を見学することに変更しました。

山崎住職が丁度おいでになり、加藤会長から見学をお願いをし、本堂の中まで見学させていただきました。



住職の「虚空蔵山と多福寺の繋がり」の話によると、多福寺八十四世住職の澄^{ちようおう}泓和尚が、江戸時代後期の天保十五年（1844）に「虚空蔵山の新四国八十八ヶ所」を発願され、虚空蔵山に大師堂（弘法大師）・不動堂（不動明王）・太子堂（聖徳太子）を建立するとともに、山全体に四国八十八ヶ所の霊場^{かんじょう}を勧請するという壮大な計画だったそうです。

檀信徒の方々の労働奉仕によって虚空蔵山につづら折りの参道が造成され、その参道に沿って八十八体の弘法大師の石像が安置されました。現状は、すでに百七十数年も経過しているので石仏の損傷が目立ちますが、虚空蔵山を仏様の聖地として尊んだ、先人の労苦を偲びながら登ってみてください、との、お話でした。

住職のお話の後、寺の見学組は中腹の大師堂と不動堂まで上り、散策してきました。

また、雨天にも関わらず、虚空蔵山山頂まで上ってきた参加者も10数名おられました。

ヘルシーテラス佐久南まで戻り、自由解散となりましたが、レストランで昼食をとりながらシニア大生のある方から「天気はよくなかったけど参加してよかった。楽しかった」との感想を聞かせてもらえました。

兎と亀の運動会

昨年に引き続いて、標記運動会を開催しました。

◆ 日 時 平成30年6月25日（月） 午前9時30分～12時

◆ 会 場 長野県佐久創造館 体育館 ◆ 参加者 60名

◆ 開会式

- ・主催者挨拶 加藤 豊久 会長
唐沢 忍 支部長
- ・競技種目説明 中田 喜志江 副会長
- ・準備体操 ラジオ体操
- ・ストレッチ体操（中村 崇先生）

◆ 競 技

① じゃんけんゲーム

- ・勝った人は旗をもらい、旗の数で順位を決めます。

② 私は貴男についていきます

- ・目隠しした女性を男性がエスコートし、速さで順位をきめます。

③ シットイングバレー

- ・床に腰をおろし、大きいボールを5回以上の回数で相手コートに戻します

④ 愛をたしかめあって

- ・男女2人で手を使わず風船を抱えて走り、速さで順位をきめます。



⑤ ゆっくり急げ

・おたまにピンポン玉をのせて走り、速さで順位をきめます。

◆ 閉会式

・成績発表・商品授与

◆ 終了



落語を通じての 社会貢献活動について（絆塾）

長野県シニア大学佐久学部の平成27年度卒業生の有志が、卒業後の活動の拠点として「絆塾」を立ち上げ、現在、会員26名が参加しております。

会員の能力維持、教養の向上および健康維持を目的として、主な活動としては、御嶽山のバスハイキングや阿智村の満蒙開拓団の見学、体操、ボーリングの運動、ヨガ、写経等の体験活動、佐久市内の社会施設や歴史にかかわる施設、美術館等の見学などを実施してまいりました。

その中で、会員の意見として、直接社会に貢献する活動を実施したいとの要望がだされ、検討をしてみました。そのなかで、地域の一般の皆様、実施する絆塾会員、また、公演者に良いものはないか検討したところ、落語の「林家さんぼ」師匠と会員の原田さんが友人との縁がありまして、スムーズに今回の公演を実施する運びとなりました。

◆日 時：平成30年6月19日（火） 午前10時30分開演

◆会 場：佐久合同庁舎 5階講堂

◆演 者：林家さんぼ 師匠（立川志らく 門下）

◆入場料：無料



当日はお客様がきて頂けるか、はらはらしておりましたところ、佐久市はもとより、小諸市、南北佐久の市町村より、128名のお客様がお見えになり、また、林家師匠の高齢者にわかり易い話芸の巧さに大いに盛り上がりました。

今回の経験を活かし、会員や地域の皆様に喜んで頂ける活動を今後も目指してまいります。

（絆塾 有賀 菊雄）